

の治療効果を得るものである。

投与例数 30 例, 著効 3 例, 症状の軽快 8 例を得た。尚本剤投与にはホルモン剤の併用は行つて居らず単独投与による。

副作用については乳房痛, 浮腫, でありいずれも短期間に消失した。

本病像は複雑なものであるので, これのみの投与に治療効果を求めることなく, 他薬剤との併用, 精神療法などを行いつつ, 今後本薬剤の持つ特色を生かすことにしてゆきたい。

43) 抗癌剤 merphyrin の臨床治験例

村瀬 靖, 宇田川敏二
神谷茂数, 貞光利造

癌治療の一方向である化学療法として制癌剤は種々あり, その多くは何れも白血球減少を主とする副作用の為, 長期使用が困難である。そこで吾々は動物長期使用試験で毒性, 副作用が少く, 癌細胞に親和性をもち, 生体に新陳代謝を亢進させると云われる, 水銀ヘマトポルフィリンナトリウム塩なる制癌剤 merphyrin (略称MH) を用い, 手術不能及び術後で放射線照射を行つている癌患者に MH 総量 250 mg 静脈内投与し, 放射線療法上の副作用に及ぼす影響を主として血液像を中心とした諸点について MH 投与せぬせのと比較し検討した。

MH は他の制癌剤と異なり, 白血球減少をほとんど来たさず, それに加えて体重増進, 食欲亢進等の好ましい影響がみられ, 副作用がほとんどなく, 為に長期投与が充分可能であることが推測され, 且つ放射線療法及び既存の制癌剤の使用不能の患者にも使用可能なる結論を得た。

44) 産婦人科領域に於ける精神身体症

時永達己, 平沢東一
増島頼三

精神身体医学 (P. S. M) 及び精神身体症 (P. S. D) について概説し, 不感症で面接した症 1 例を報告した。本教室外来を冷感症の主訴で訪れた患者数は極めて少なく, 延外来患者数 11563 名中 5 例しかない。(性交痛及び夫側の不満例は除く) そのうち性感を対照にした治療を行なつたのは 3 例であり, 1 例はボセルモン投与により, 他の 2 例に面接した。

面接例の 1 例は Onanie 常習者で未発達段階の性感覚所有者で, 他の 1 例が今回発表した心因性不感症である。嫁姑間の不和, 夫への不満と不安が, 妊

娠中絶後の身体条件に相乗されて性交拒否を生み出していると思われ, 説得により自覚をうながす一方 バランス 20 mg 1 月投与で軽快している。Kinsey その他の報告によれば性的不満者は更に多い筈であり, 性教育の発達普及に伴い, 今後, 不感症の主訴で訪れる患者は増加するのではないかと思う。

45) 動脈管開存症の帝王切開経験

島田 勉, 高橋 剛
滝口光雄, 鈴木通也
稲葉博満

先天性心疾患を合併した妊娠例の報告は少い。われわれは最近, 動脈管開存症に胎児性内膜炎性僧帽弁狭窄, 閉鎖不全を合併した症例に遭遇した。

25 才, 1 回経産婦 (当科にて以前帝切), 妊娠 10 カ月, 上記心疾患の診断で, 6 月 27 日帝王切開を施行した。麻酔は, 前麻酔としてアトロピン 0.5 mg 麻酔維持は笑気, S. C. C の間歇投与で無事手術を終了, 術中経過も良好で母児共に無事退院したものである。

心疾患を合併した場合, 予め内科的療法で症状を好転せしめておいて, 適当な時期に帝王切開を行うのが, 比較的侵襲も少く良い方法の様に思える。本症例のみならず, 当教室でおこなつた心疾患の帝切例についても検討した。

46) 吾教室に於ける過去 10 年間

(昭和 26 年~35 年度) の帝王切開の統計

島田 勉, 本橋しず子
飯島日出男

産婦人科領域に於いて重要部門を示める帝切は麻酔技術の進歩, 新生児管理の充実, 血液銀行の完備などにより, 一層その真価を発揮して来た。ここに帝切例 185 例 (分娩総数 4975 例) について, 年令別, 経産回数より見た考察, 適応症, 麻酔法の変遷更に母体予時, 児予後に関して統計的考察を試みたので報告する。

47) 口腔粘膜にアフタ様潰瘍を伴える陰門潰瘍

高見沢裕吉, 田中 穰
堀 敬明

急性婦人陰門潰瘍は 1904 年 Lipschütz により記載された比較的稀な疾患である。吾々は今回口腔粘膜にアフタ様潰瘍を伴える陰門潰瘍を経験した。患者は 33 才 3 回経産婦である。初発症状は陰部にヒリヒリする痛みを感じ軽度の発熱を来した。外陰所